土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名	三次町地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う測量・地質調査・設計・用地調査業務委託(交付金)その2
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	その他　自然斜面

ボーリング名	BorNo.R5-10	調査位置	広島県三次市三次町　地内			北緯	34° 49' 21.3500"
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	令和5年10月10日～ 令和5年10月17日	東経	132° 49' 01.8800"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 178.25m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	30° 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機　DO-C型
総削孔長	10.00m								エンジン	ヤンマー　NS-90EK型	ポンプ	東邦地下工機　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
0	177.55	0.70		礫混り砂質土		暗褐	rd2		最上部層(表土) ・最上位は腐植混じる黒褐の腐葉土 ・砂は細ー中粒砂、礫はφ40mm程度以下の中ー粗礫が混入	
1	176.35	1.90		礫混り粘土質砂		褐灰	rd3		崩積土 ・基岩同質の岩屑主体の崩壊堆積物 ・礫はφ50mm程度以下の基岩同質の細ー中礫、クサリレキ点在 ・基質は基岩風化帯を起源の粘土質砂	
2				流紋岩		淡黄			流紋岩質凝灰岩強風化岩(DH) ・風化変質によって土砂化した脆弱部と軟岩Ⅰ相当のやや硬質な残留岩芯が混交する ・原岩組織は明瞭に残存 ・採取試料は脆弱部では土砂状を呈し、残留岩芯は岩片ー短柱状を呈す ・GL-3.00ー3.50m間、土砂状の強風化部	
3										
4										
5	173.25	5.00		流紋岩		淡灰			流紋岩質凝灰岩(CM) ・岩質は堅硬、新鮮部及び亀甲状の節理発達部が混交する ・新鮮部は短柱状主体、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する ・節理発達部では一部で開口が認められるものの、概ねでは節理間の密着は良い ・採取試料は短柱状主体を呈すものの、場所的に亀甲様の毛髪状節理に卓越する密集 帯では脆く岩片ー礫状に容易に砕ける ・節理面は暗褐色に変色し場所的に黄灰色の膠着物が挟在、節理周辺は酸化変色して 褐灰色を呈す ・GL-9.50ー9.60m間、節理に卓越し礫状を呈する	
6										
7										
8										
9										
10	168.25	10.00								
11										
12										
13										
14										
15										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
10	1.15	4	3	3	10/300		
	1.45						
50以上	2.15	15	19	16	50/250	250	
	2.40			50			
42	3.15	14	12	16	42/300		
	3.45						
50以上	4.00	28	22		50/140	140	
	4.14		40				
50以上	5.00	貫入不能			50/0	0	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				10/11
				10/12
				10/13
				10/16